取扱説明書

安全のための注意事項:

- この取扱説明書をよくお読み下さい。
- この取扱説明書に書いてある事柄を順守して下さい。
- 警告事項には十分注意して下さい。
- 取扱説明書の指示に従って下さい。
- この製品を水の近くで使用しないで下さい。
- この製品を拭くときは乾いた布を使用して下さい。
- 正しい電圧・電力を供給する、アースの取れた電源アダプターまたはユニバーサルタイプの電源供給装置を使用して下さい。誤った電圧や電力で当製品を使用すると、音質が損なわれたり、パフォーマンスが一定でなかったり、また製品にダメージを及ぼす危険があります。この説明書の末尾にある、正しい電圧・電力量・そしてアースグラウンドの仕様をご確認下さい。
- 電池交換の際は、製品の底にある電池蓋を外します。内部部品の一部は大変精密で静電気によってダメージを受けやすいため、電源が入っているときは、蓋を開けたまま製品の底部が下を向かないように十分ご注意下さい。

この度は本製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。そしてMESAファミリーへようこそ！優れた品質の高い製品を作り出し顧客のニーズに対応するべく、我々はアメリカはカリフォルニア州にあるPetaluma(ペタルマ)の唯一の工場で一つ一つ同じ情熱をもって製品を完成させています。また、あなたが選ばれたこのエフェクトペダルは、ハンドビルドの高級アンプに携わっている、全く同じ人間の手によって生産されているのです。

THROTTLE BOX EQ™

THROTTLE BOX™オーバードライブの世界的な成功を受けて、我々は、MESAの” クラシック” 5-BANDグラフィックイコライザーを搭載した、よりパワフルなバージョンのポテンシャルがあると考えました。この5-BANDイコライザーでパワーシェイプを行うことで、より自由なサウンドメイクを実現します。GAINコントロールの中域は、タイトかつ鋭いオーバードライブサウンドを生み出し(LOまたはHI GAINモードのどちらかを選択可能)、ブルーズからモダンメタルまで幅広い領域をカバーしたパーカッシブなサウンドキャラクターを持っています。例えばGAINコントロールを高めに設定し、かつHIモードにした場合、トップエンドが焼きつくような激しいサウンドを得ることが出来ます。ハードロックやメタルサウンドには、5-BAND イコライザーを定番のミッド・スクープ(中域のカット)した” V-カーブ” の設定にすれば、40年間にわたり不変の最もヘビーなサウンドを生み出します。また無限の周波数カーブを持つ二つのGAINは、ライブパフォーマンス中でも設定が可能です。そ

のほか、HIまたはLOレベル・アウトプットコントロールは、GAINモードごとに独立してお望みの音量設定を行うことが来ます。またEQは、それぞれまたは両方のGAINモードにアサインし、望みのGAINモードでアクティブにすることが出来ます。またもちろんオリジナルのTHROTTLE BOXからパワフルに効くMID CUT(ミッド・カット)コントロールを受け継いでおり、グラフィックスライダーの操作に加え、広域での中域カットが可能です。最後に、オリジナルのTHROTTLE BOXでは内部底面に設置してあったBOOSTスイッチですが、今回の製品ではより簡単に操作できるようにトップパネルに設置されています。BOOSTするとサウンドに迫力が加わり、GAINが強調されます。我々はこのペダルがプレイヤーの期待を超え、また、演奏をインスパイアするものであると自負しています。

機能と操作について

OUT(アウトプット)ジャック 楽器用ケーブルをこのジャックに接続し、反対側をアンプまたはアンプ側のエフェクトペダルのインプットジャックに接続します。

IN(インプット)ジャック 楽器用ケーブルをこのジャックに接続し、反対側をご使用の楽器(ギター)のジャックに接続します(高品質のシールドケーブルのご使用をお勧めします)。このジャックはスイッチングタイプとなっており、ケーブルを接続すると回路がONになります。回路がONになると内部の電池も消耗しますので、使わないときはケーブルを抜いておきます。

注意:インプットジャックにケーブルを接続したままにしておきたい場合は(ペダルボードでご使用の場合)、外付けのDC9V電源アダプターのご使用をお勧めします。電源アダプターを使用時は内部電池からの電源供給が自動的にオフになりますので、電池の消耗を防げます。もし外部電源アダプターをペダルボード内で長期間使用する場合は、エフェクター内部の電池を取り外しておいて下さい(電池の腐食によるエフェクター内部の損傷を防げます)。

注意:ケーブルについですが、エフェクター等に楽器を接続する際は、なるべく短くかつ高品質の楽器用シールド・ケーブルを使用するようにして下さい。それにより長いケーブルの引き回しによる音の劣化(特に高域のロス)を最小限にとどめます。我々は楽器のジャックからアンプのインプットジャックまでのトータルが約5.4〜6mの長さとなるように推奨しています。もしそれ以上の長さが必要になる場合は、音質を保つためバッファーやラインドライバーの使用も一つの方法としてお考え下さい。

HI LEVEL(ハイ・レベル)コントロール HIモードが選択されている際のマスターボリュームで、HIモードがアクティブ時の信号の量を調節します(LOモードと近い音量にセットすることも出来ます)。または曲中のある演奏パートやソロパートを演奏時に音量を大きく設定することも出来ます。その他にも、BYPASS(バイパス)モードより音量を大きくしたり、より小さくしたりすることも出来ます。もう一つは、HIレベルコントロールを敢えて高めの設定にし、その入力信号によってアンプのインプット段でクリップを起こしドライブまたはゲインを得るという方法もあります。

LO LEVEL(ロー・レベル)コントロール LOモードが選択されている際の出力(ボリューム)を調節します。HIレベルコントロール同様HIモードの音量に近づけたり音量差を付けることも出来ますし、バイパス信号と同等のレベルに調節することも

出来ます。その他にも、アンプの入力段でクリップを発生させ、更にアンプのオーバードライブを得る使用方法もあります。

注意：HIモード/LOモードそれぞれ独立したレベルコントロールが存在するので、片方が5-BANDイコライザーを併用している場合でも二つの音量差を縮めることが出来ます。片方のモード(例えばHI)でEQを併用した過激なサウンドを作って、もう片方(例えばLO)でグライコを使わないサウンドとの音量のマッチングを行ったりと、かなり柔軟に使用することが出来ます。

TONE (トーン)コントロール このオール・イン・ワンのEQコントロールは、シンプルに全部の帯域を一つのコントロールで調整を行うものなのですが、プレイヤーの耳にはミックスの中で高域の量が最も多いように聞こえるかもしれません。12時の位置でフラットなセッティングになり、高域はブーストもカットもされない状態です。12時より上にすると高域の広い範囲でブーストされ、12時より低い設定では高域の同帯域がカット(ロール・オフ)されます。

GAIN(ゲイン)コントロール LO/HIモード両方のシグナルパスのゲインの量を調節します。

低め(8時～10時半)の設定では、わずかにオーバードライブしますがまだ柔らかく、クラシックで中域にパンチのあるサウンドです。LOモードで使用する場合、少しプッシュされたスレッショルドがクリップしたリズムサウンド、またはブルーズのソロサウンドにうってつけです。

真ん中あたり(10時半～1時半)の設定が最も多様に使えるゲイン領域となりますが、歪み始めていてもまだダイナミックなパンチは残っており、輪郭のはっきりとしたタイトなサウンドです。

高め(1時半～5時半)の設定では分厚い歪みが得られます。エクストリームロックやメタルといったスタイルに適しており、かつ単音でのソロサウンドにも有効です。LOモードで過去の偉大なロックのソロを弾いてみるのも良いでしょう。

MID CUT(ミッド・カット)コントロール “ブレンドタイプ” のTONEコントロールに加えて、(LO/HIモード共に)幅広く効くMID　CUTコントロールが装備されており、ミッドレンジをカットしてよりワイドな迫力あるサウンドを得られます。また、クラシックなBoogie “V” グラフィックイコライザーのカーブを真似ることも可能です。Boogie “V” は、多くのアーティストにとって基本的なセッティングとなっており、MESAのアンプを使用する際に最もヘビーなサウンドを得るためのパワフルな手法として何十年にも渡り使用されてきました。MID　CUTコントロールはTONEコントロールの設定が優先された後に効果を発揮し、設定を高くするとその分だけ中域がカットされます(最大は5時半の位置となり、シグナルパスにはそれ以上中域が残っていない状態となります)。

FIVE BAND GRAPHIC EQ(5-BAND EQ) 2つのミニ・トグルスイッチ、2個のLEDと5個のスライダーは全て5-BANDイコライザーセクションを構成するものです。ミニ・トグルスイッチは、5-BANDイコライザーのHI/LOそれぞれのON/OFFを切り替えます。赤いLEDが点灯しているときは、任意のモードで5-BANDイコライザーがONであることを示しています。スライダーの下にあるカーブしたバーは、演奏中に誤ってスライダーを踏まないように保護するためのものです。スライダーポットはそれぞれの帯域で+/-12dBのカット/ブーストが可能で、とてもパワフルなレスポンスが得られますが、

注意深く行わないと周波数に穴が開いたり、耳障りなピーク(ブースト)を作ってしまいます。

スライダーによって無限にプレイヤー自身のシグネイチャーサウンドが生み出せる一方で、一つの特別な周波数カーブがロックの歴史で名を刻みました。それがクラシック" Vカーブ" です。真ん中の(中域)750Hzスライダーが下げられ、くぼんだサウンドを作るためにかなりの量の中域がカットされています。

次の二つ、Low(低域 80Hz)とLow Mid(低-中域 240Hz)のスライダーがブーストされ、スタート位置の線の上の、真ん中と一番上の間に設定されており、巨大なボトムエンドを形成しています。

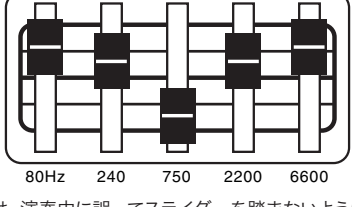
そして最後にHi Mid(高-中域 2200kHz)とHigh(高域 6600kHz)もブーストされ、スタート位置の線の上の、真ん中と一番上の間に設定されており、トップエンドに倍音のレイヤー(層)を形成します。

こうしてBoogie®の" Vカーブ" が完成します。多くのアイコンとなるアーティスト達が、ヘビーなサウンドを得るためにこのセッティングを４０年に渡って使用しており、この素晴らしいサウンドに迫るものはそうはありません。そしてこのミッドカットされたカーブは他の用途にも有効で、エキサイティングなものになります。

ここからは、この象徴的な" Vカーブ" を、お持ちのアンプやスピーカーキャビネット、ギターやピックアップまたその演奏方法にフィットするようにスライダーを調整してみて下さい。我々は一つの例としてこのポピュラーなカーブを紹介しましたが、実際は" 正しい" カーブなんてものはありません。あなたの耳や手が納得するまで、色々なセッティングを試してみて下さい。

注意：一般的にお勧めできるのが5-BANDイコライザーをOUTにした" フラットな" 設定です。理由は必要以上にEQを操作することによって、欲しいサウンドがよく分からなくなることがあるからです(特に真ん中の750Hzの帯域でよく起こります)。耳が中域の無い方に慣れていき、多くの人がよりもっと中域をカットしたがります。そんなときは、ギターという楽器が本来" 中域" の楽器であることを思い出して、音のミックス上で抜けを良くするように中域を加えてみて下さい。

クラシック "Boogie V カーブ" の例



スライダーの下にあるカーブしたバーは、演奏中に誤ってスライダーを踏まないように保護するためのものです。

Boost(ブースト)スイッチ もう一つの非常に有効な機能として、(LO/HIモード両方で有効な)ブーストスイッチが搭載されており、イコライジング全体を更に変化させることが出来ます。このスイッチをONにすると音にゲインと迫力そして太いローエンドが加わり、全ての穴を埋めるようにサウンドが全体的に大きくなります。BOOSTをONにする際はバランスを取るために、TONEコントロールのみまたはグライコの両方の調整が必要になるかもしれません。

ヘビーかつハイゲインなサウンドは大抵BOOSTポジションで得られます。低-中レベルのゲインのサウンドでは問題ありませんが、より抑えが効いたバランスの取れたローエンドは、大抵BOOSTされていない状態または通常の状態で得られます。

HI/LO(切替)フットスイッチ HI/LO切替フットスイッチはゲイン回路に組み込まれており、二つの異なるゲイン領域(オーバードライブ・レベル)を作り出します。このフットスイッチで、HI/LOゲインモードを切り替えます。
LOモードは、クランチサウンドやクリップしたコード演奏または中レベルのゲインでのソロサウンドに有効です。HIモードは歪みがより増して、ヘビーロックやメタルのバッキングまたは燃えるような単音リードソロサウンドに適しています。BOOSTをバイパス(OFF)にしてLOモードを試してもらえば、低めまたは中レベルのゲインサウンドでのブルーズやR&B、またはわずかな歪みで事足りる際にはベストなバランスとなります(前述の" BOOST" の項をお読み下さい)。ローエンドとトップエンドのバランスが取れているときはサウンドがよりスイートかつダイナミックになります。HIモードではゲインがアップし、よりオーバードライブとサステイン、倍音の層が加わります。BOOSTもONにすれば、最大限の歪みと、ヘビーサウンドに最適な迫力のあるローエンドが得られます。

BYPASS(バイパス)スイッチ このスイッチはTHROTTLE BOX EQ™を" ハード" バイパスします。シグナルパスから全ての回路が離れ、インプットからアウトプットまで一本のワイヤーで信号が伝達されます(ギター用ケーブルで使用されているすごく短いワイヤーと同じようなものです)。バイパス時は全てのコントロールが信号に対して無効になり、THROTTLE BOX EQ™による色づけが何もされないギター信号となります。

注意:ケーブルは長くなればなるほど静電性を帯びて高域のロスが生じますので、出来るだけ短めのケーブルを使用して下さい。

外部電源ジャック 外部電源アダプター(標準9V DCアダプター、プラグタイプはオス型)から電源を取る際のメス型ジャックです。

注意:本製品には電源アダプターが付属していません。
警告! 外部電源アダプターは、**DC9Vのセンターマイナスのプラグ極性**(2.1mm x 5.5mmジャック)のものを使用して下さい。機器にダメージを与えないために、AC9V電源アダプターは決して接続しないで下さい!

電源アダプターを電源ジャックに接続すると、内部電池からの電源供給が自動的にオフになりますので電池の消耗を防げます。もし外部電源アダプターをペダルボード内で長期間使用する場合は、エフェクター内部の電池を取り外しておいて下さい(電池の腐食によるエフェクター内部の損傷を防げます)。

電池について 当製品は9V電池1個または標準の9V" DC" 電源アダプターでの使用が可能です。楽器店ですぐに試奏やデモンストレーションが行えるように、工場からは長寿命9V電池同梱で出荷されます。

注意：より電池を長持ちさせるため、また外部電源を使用する際は、9V電池を追加することが可能です(トータル2個)。電池BOXに端子が二つ付いていますので、底面のプレートの4つのネジを外して取り外し、工場出荷時の電池の横に二つ目の電池を取り付けることが出来ます。これによって電池での使用期間が長くなり、電池交換の間の期間が長くなります。

注意：内部電池(1つまたは2つ)は、インプットジャックのスイッチ機能でON状態(電圧がかかった状態)になります。バッテリーを長持ちさせるためには、製品を使用していない時はケーブルをインプットジャックから抜いておくようにしてください。

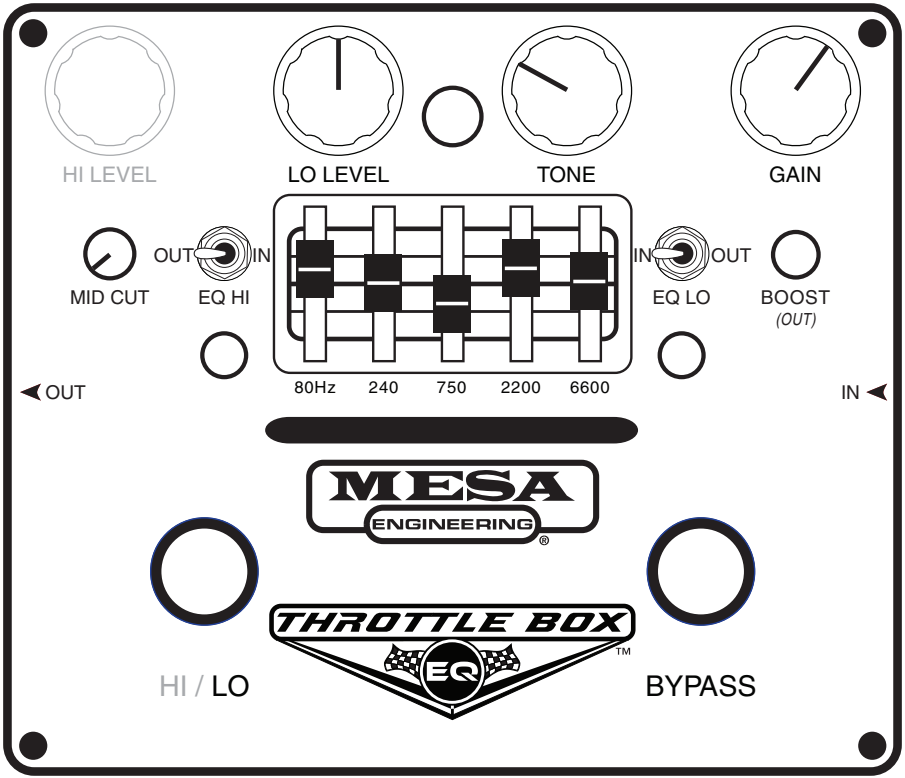
9V電池のチェック、交換、取り外しの際には、外部電源ジャックの接続を切り、裏蓋の四隅を留めているプラスねじ4本を外してください。バッテリー、端子の向きを確認して、交換後も同じ向きになるようにしてください。

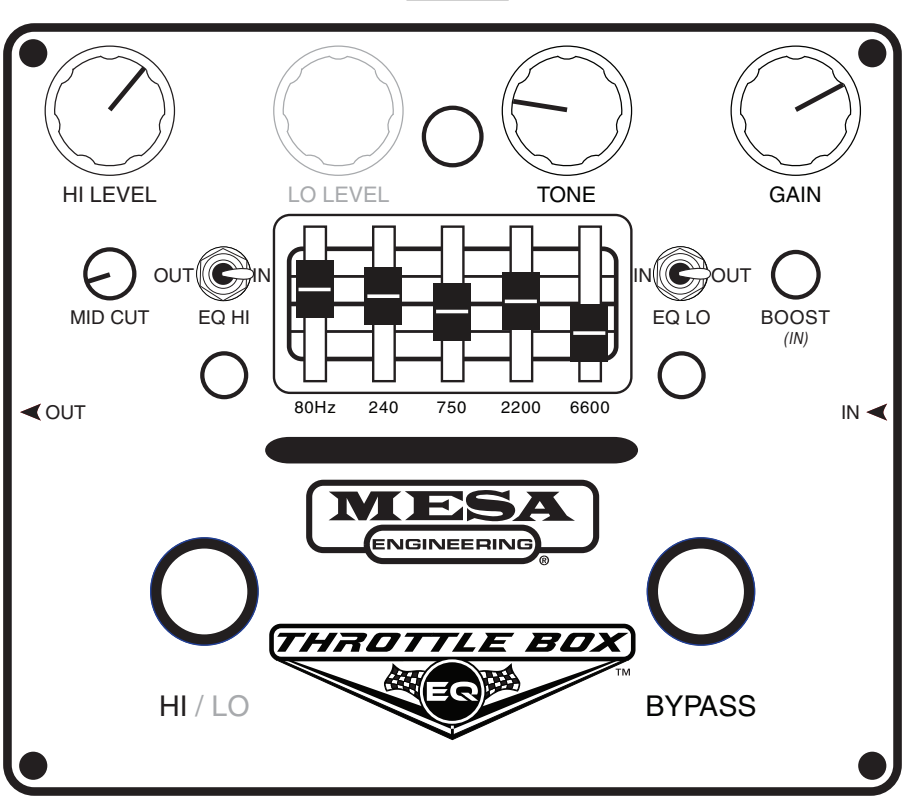
注意:9V電池ならどのようなものでも使用が可能です。マンガン電池、アルカリ電池だけでなく、充電式のニッケルカドミウム電池もご使用いただけます。エフェクターマニアの方の中には、一般的なマンガン電池ならではのスイートな音を好む方もいますが、当製品に関してはプレイヤーの好みに合わせて自由にお選びいただくことが可能です。

SPECIFICATIONS(仕様)

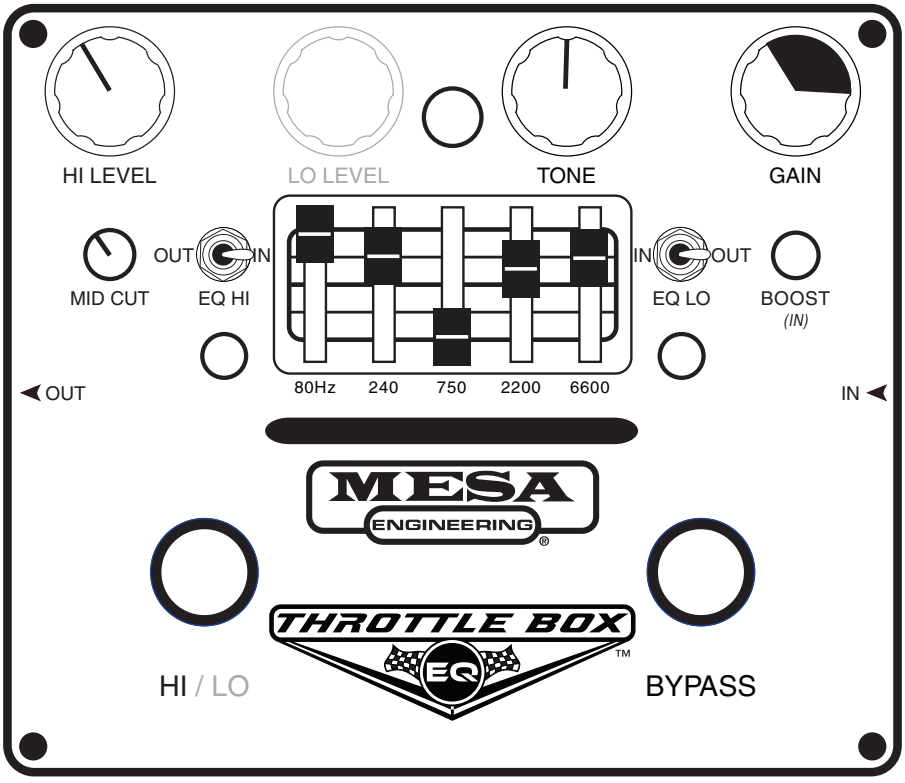
- 寸法 (W/D/H)：5.78" x 4.76" x 2.30" (146.8mm x 121mm x 58.4mm)
- 重量：1.7lbs(817g)/電池1個込、1.6lbs(726g)/電池なし
- トゥルーバイパス・スイッチ
- 電池：9V DC (1個または2個 - 2個目は電池寿命を長くするために使用)
- 消費電力：9V DC/30mA
- 電源アダプター (別売)：Power Jack 2.1mm x 5.5mm, 9V DC センターマイナス
- 入力インピーダンス：1MΩ (最小500kΩ)
- 出力インピーダンス：10kΩ

CLASSIC ROCK CRUNCH

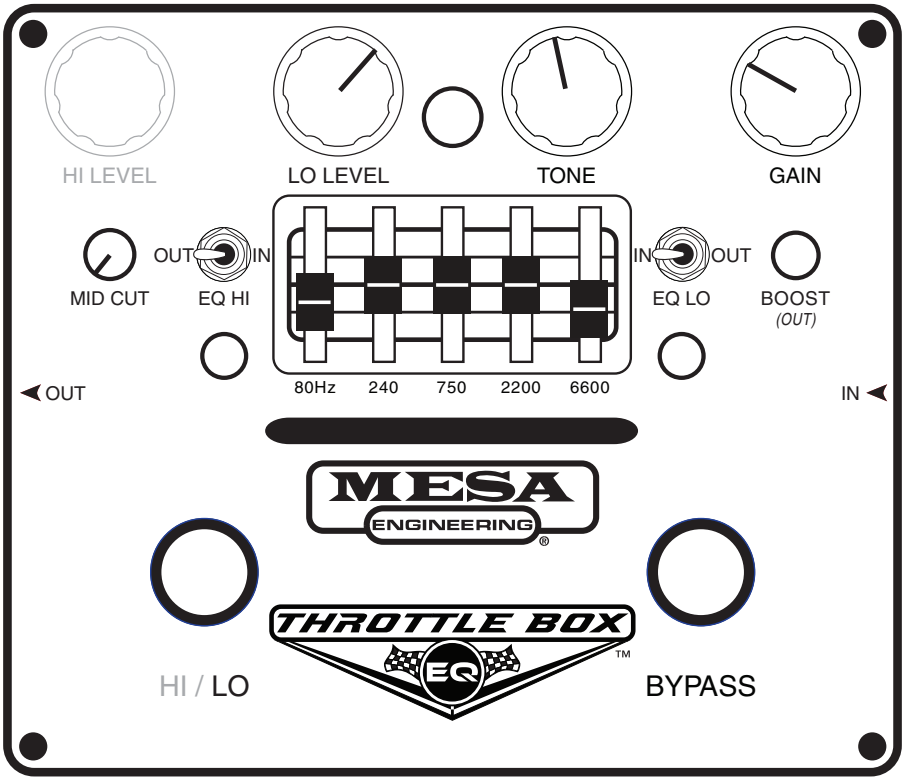



HI SOLO
HI LEVEL
LO LEVEL
TONE
GAIN
OUT
IN
MID CUT
EQ HI
IN
OUT
EQ LO
BOOST
(IN)
80Hz
240
750
2200
6600
OUT
IN
MESA
ENGINEERING
THROTTLE BOX
EQ
HI / LO
BYPASS

HI "V" CRUNCH


HI LEVEL
LO LEVEL
TONE
GAIN
OUT
IN
MID CUT
EQ HI
IN
OUT
EQ LO
BOOST
(IN)
80Hz
240
750
2200
6600
OUT
IN
MESA
ENGINEERING
THROTTLE BOX
EQ
HI / LO
BYPASS

LO STINGING BLUES



MESA/BOOGIE®

The Spirit of Art in Technology

MESA ENGINEERING®

www.mesaboogie.com

(707) 778-6565 FAX NO. (707) 765-1503

1317 Ross Street Petaluma, CA 94954

USA

14/03/18